ビーマについて

### **■ビーマについて**

・インド古代叙事詩「マハーバーラタ」における主要登場人物の一人。パーンダヴァ五王子の次男であり、アルジュナの兄にあたる。

風神ヴァーユの子として生まれ、五王子の中でも特に肉体的な能力に優れている。

人を喰う羅刹を退治した話や、同じ風神の子でもあるハヌマーンと対峙したエピソードがあり、現在でもインドでは「剛力無双」「力持ち」の代名詞として扱われるという。

見た目通りの大食漢であるが、料理を作るほうの腕前も相当なもの。

正体を知られずに一年間過ごさねばならない、という状況になった際は宮廷料理人として働いていた。

・ビーマセーナとも呼ばれる。

クンティーが風神ヴァーユにマントラを捧げて生まれた子であり、その生誕の際には、「この子は強者の中でも最強のものとなる」との声が天より聞こえたという。

五王子の中でも特に物理的・肉体的な力に優れているとされ、棍棒や拳闘を得意とする。

人を苦しめていた羅刹ヒディムバ退治のエピソードでは、その妹ヒディムバーがビーマに恋をする。

それに苛立ったヒディムバがビーマに襲いかかるが、彼はあっさりとそれを返り討ちにして殺した。

残るは同じ羅刹の女のみ。

ビーマは彼女にも兄と同じ道を辿らせようとしたが、長兄ユディシュティラの口添えにより、ヒディムバーを（限定的に）受け入れることになる。

「昼間は彼女の元で暮らし、夜は戻ってくる」というものである。

その結果、二人の間にはガトートカチャという強力な羅刹の子が生まれ、のちの大戦争でもパーンダヴァ側に立って戦った。

・五兄弟がユディシュティラの賭け事で妻を奪われそうになった際、相手側にいたドゥリーヨダナは太股ふとももを彼女に見せて侮辱した。

これにビーマは激怒し、「戦争になればその太股ふとももを棍棒で粉砕するであろう」と宣言する。

後の大戦争の際、ビーマとドゥリーヨダナは棍棒の一騎打ちを行った。

本来、決闘中に臍へそから下を攻撃することはルール違反であったが、互角の膠着状態が続く中、ビーマは（アルジュナのヒントによって）自らの宣言を思い出し、ドゥリーヨダナの太股ふとももを棍棒で打って倒したという。

それは伝承に語られているものであり、正確な事実がどうであったかは定かではないが……

少なくとも『虚数羅針内界 ペーパームーン』におけるビーマは、戦争前の偽装料理人であった時代に起因する自我断片───『奉仕のアルターエゴ』であった影響により、この結末を覚えていなかった。霊基の奥底には刻まれていたのだとしても、アクセスできなかった。

カルデアにいるビーマは勿論この決闘について覚えている。だが、あまり語りたがらない。

もし、どうしても訊きたい、とさらにその先に踏み込もうとするなら、覚悟が必要となるだろう。

それはアルジュナにカルナとの結末について尋ねるのと似たようなものだからだ。

### **■プロフィール**

身長/体重：191cm・90kg

出典：マハーバーラタ

地域：インド

属性：秩序・善　　副属性：天　　性別：男性

ビーマの一言：コメントどんどんおかわりしてほしい。

### **■スキル**

・ヴァースキの霊薬：Ａ

かつてビーマは彼を憎むカウラヴァたち（ドゥリーヨダナ）に毒を飲まされ、川に流されたことがあった。

しかし彼は蛇の世界に辿り着き、蛇たちに噛まれた結果、体内で毒を中和して復活する。

さらに蛇の王ヴァースキから「飲むと力が得られる」という霊薬を与えられ、それを飲み干して兄弟たちの元に戻ったという。

・棍棒術：Ａ

クル族の武術師範ドローナ（アシュヴァッターマンの父）や英雄バララーマに学んだ棍棒術。

剛力無双と謳われるビーマは、特に棍棒術にその才を示したという。

俗にイメージされる「棍棒」に限定したものではなく、棒状の武器全般に対して適用可能な武術技能。

そこらに生えている樹木でさえも、怪力のビーマにとっては立派な武器である。

・ハヌマーン・ハウリング：ＥＸ

猿神ハヌマーンの加護を受けた大咆哮。

ハヌマーンも風神ヴァーユの子であり、すなわちビーマにとっては兄にあたる。

妻ドラウパディーが求めた花を摘みに行ったビーマは、法螺貝や叫びなどで森に大音を生じさせた。

それを聞いた森の動物たちは大混乱に陥ったが、眠っていたハヌマーンは欠伸をしただけで、さらに尻尾を動かしてビーマの音を掻き消すような大音を発した。

その後、行く手を塞いでいたハヌマーンに、それと知らないビーマは道を譲るよう高圧的に要求する。

ハヌマーンは「通りたければ尻尾を持ち上げて通れ」と答えたが、剛力無双のビーマであってもハヌマーンの尻尾は持ち上げられなかった。

その後、ビーマは自らの驕おごりを恥じ、二人は良好な関係を結んだという。

### **■宝具**

『風神の子、此処に在り』

ランク：Ｂ　種別：対人／対軍宝具

レンジ：ー　最大捕捉：１人

マールティ・ヴァーユプトラ。

意味はどちらも「風神の息子」。

風神ヴァーユの持ち物である白き旗槍を媒介に、自らの身の内に宿る神性を活性化させる宝具。

ヴァーユの暴風を巻き起こし、それを圧縮して身に纏う。筋力・敏捷のステータスが飛躍的に向上し、さらには飛び道具に対する強い防御性能を発揮する。

ただでさえ剛力無双なビーマの肉体にヴァーユの風が纏われたならば、それはもはや単なる個の英雄ではなく、

一人で一軍を壊滅させる兵器にも等しい。

本来ならばその風を外に向けて放出することも可能なはずだが、不得意であるのか、あるいは意図的に封じているのか、あまり飛び道具的な使い方はされない。

（肉弾攻撃の余波として風が届くことはある）

ヴァーユの風はかつてヒマラヤの一部を吹き飛ばし、それが海に落ちてランカ島となったとも言われている。

### **■ゲーム内のセリフ**

・CV：江口拓也

・ドゥリーヨダナがカルデアにいる場合

「子供の頃から俺は、人並み以上の力を持ってた。それに気付かず、普通に遊んだり、鍛錬したりしちゃ……ま、相手を泣かせたり怪我させたりしちまう事もあらぁなぁ。だから、ドゥリーヨダナ達が、子供の頃から俺を憎んでたのも、別に逆恨みとは言えないのかもしれん。……それでも、奴らが俺たちにした事を、許すつもりはないがな」

・好きなこと

「分かってんだろう？ 好きなものは料理だ。ま、食う方も好きだがよ。悪ぃが俺は、めちゃくちゃ食うぜぇ？」

・嫌いなこと

「賭け事は嫌いだ。全然強くねぇのに賭け事が好きで、すーぐ熱くなっちまう身内がいてなぁ。大変なことになったんだわ……いや、マジで……」

・聖杯について

「聖杯かぁ。それだけ力のある器を使ったら、ひょっとしたら見たことねぇ料理が作れるのかも……あん？ もう大変な事になった後？ ……ハッハッハッハッハ！ 俺以外にも[[そんな剛毅な事を考える奴がいたとはなぁ！」

・召喚時

「おう、ビーマだ、よろしくな。いや、最初ぐらいはきちんとしねぇと駄目か？兄弟たちが見てるかもしれんしな。……私はパーンダヴァ五王子の一人にして風神の子、ビーマ貴殿の力となるべく参上した。以後よろしく頼む……なーんてな。さて、なんか食うか？」

・バトル開始時

1「力比べといこうか！」

2「おいおい、楽しそうだな！」

3「その勇気は買うぜぇ？」

4「調理、開始だ」

・スキル使用時

1「うおおおおお！」

2「いい風が吹く……」

3「んっ、んっ……美味い！ もう一杯！」

4「んっ、んっ……くぅ～！ キクぜぇ！」

5「ハヌマーン……ハウリング！！」

・コマンドカード選択時

1「いいぜぇ！」

2「遠慮すんな！」

3「ちょいと待ってな」

・宝具カード選択時

1「下拵えは十分だ」

2「火を入れる」

3「美味ぇぞぉ？」

4「本気を出すかぁ」

・アタック選択時

1「空までぶっ飛びなぁ！！」

2「オラオラぶっ刺し殺す！！」

3「こいつで行くかぁ！！」

4「折り畳んでやるぜぇ！！」

5「巻きあがれ、風よ！！」

6「素手で楽しもうじゃねぇかぁ！！」

7「使えりゃ何でもいいんだよぉ！！」

・エクストラアタック選択時

1「ヴァーユの子、ビーマだ！！」

2「今日の風はぁ、暴れるぜぇ！！」

霊基再臨第三段階スキル選択時

1「いったん落ち着くかぁ」

2「うおおおお！」

3「酒は飲んでも飲まれるなってなぁ」

4「酒のつまみになりてえのかぁ？」

5「へっ、あくびみてぇなもんだ！」

霊基再臨第三段階アタック選択時

1「いくぜオラァ！！」

2「暴れちまいなぁ！！」

3「一直線にぶち抜く！」

4「どこまでも昇れぇ！！」

5「歯応えは大事だぜぇ？」

6「柔らかくしてから斬る！」

7「ハヌマーン……ハウリング！！」

霊基再臨第三段階エクストラアタック選択時

1「ヴァーユの風よ、我が敵を食らえ！！」

2「よくかき混ぜた方がいい！」

・宝具発動時

1「我が血に眠る風神の力よ、今こそブチ目覚めろ！ おおおおおおおおっ！！ 『&ruby(マールティ・ヴァーユプトラ){風神の子、此処に在り};』！！」

2「我は風神の子、剛力無双を示すもの！ 嵐の力よ、集いて我が手に！！ 吹き飛べぇっ！！ 『&ruby(マールティ・ヴァーユプトラ){風神の子、此処に在り};』！！」

3「さーて、調理を始めるとするかぁ！ 道具は……コイツだ！ 行くぞオラァ！！ 強火でこうすりゃ、出来上がりだぜぇ！！」

4「我が血に眠る風神の力よ、今こそブチ目覚めろ！ おおおおおおおおっ！！ ───まだまだぁ！！ 超・風神鎧、着装！ 逃がしゃしねぇぜ！ 『&ruby(マールティ・ヴァーユプトラ){風神の子、此処に在り};』！！」

5「我は風神の子、剛力無双を示すもの！ 嵐の力よ、集いて我が手に！！ 吹き飛べぇっ！！ ───まだまだぁ！！ 超・風神鎧、着装！ 逃がしゃしねぇぜ！ 『&ruby(マールティ・ヴァーユプトラ){風神の子、此処に在り};』！！」

6「我が血に眠る風神の力よ、今こそブチ目覚めろ！ おおおおおおおおっ！！ ───おかわりが必要だろう！？ 喰らいな！ 腹一杯に……なりやがれぇっ！！」

7「さーて、調理を始めるとするかぁ！ 道具は……コイツだ！ 行くぞオラァ！！ ───まだまだこんなモンじゃねぇ！！ 最後の仕上げだ！ おいしくなーれ！ 隠し味パーンチ！！」

・ダメージを受けた時

1「いいスパイスだ！！」

2「おっと！」

3「元気がいい！」

4「やるなぁ」

・戦闘不能時

1「腹、減ったな……」

2「マジかよ……！」

3「わり……油断したわ……」

4「次はぶっ殺す……」

・勝利時

1「動いたら腹減ったなぁ」

2「おかわりか？ いいぜぇ！」

3「さて、何が食いたい？」

4「ご馳走様でした、と！」

・レベルアップ時

1「うーん……美味い！」

2「まだ筋肉のつく余地があったとはなぁ……」

3「ハッハッハッハ！ こいつはご馳走だ！」

・霊基再臨

1「たまにはきちんとしてみるかぁ。実は、気に入ってるんだぜ？ これ。ハハッ、違う違う。儀式の時に使えるとか、王族だからとか関係ねぇ。いや、元々はそれ用かもしれねぇが。料理がしやすいんだよ、この格好はな」

2「うしっ！ いっちょ上がりだ、冷めねぇうちに持ってってくれ。なに？ さっきの皿がもう空になっただと？ しょうがねえなぁ、おかわりもすぐ作ってやるよ。ちょっと待ってな」

3「ふぅ……。これは、俺がガチでやり合う時の戦装束みてぇなもんだ。こっからは、ちっと本気だぜ？ つーわけで……悪いな、腹が減った時でも、すぐには飯を作ってやれねえかもしれん」

4「お前は分かってんな？ 最高の料理を作るには、それなりに必要なもんがある。時間とか、素材とか、労力とか。サーヴァントも同じだ。お前がこの俺ってサーヴァントに、こんだけの労力を捧げてくれたんなら、応えねえわけにはいかねぇな。心配すんな、ちっとくらい何かが足りなくても、パワーで無理矢理ねじ伏せる。それもまた料理人の、そして、戦士の腕の見せ所だぜ」

・絆Lv上昇時

1「俺は王子であるが、堅苦しいのはあんまり好きじゃなくてなぁ。口調は乱暴でも、別に敬意を払ってないわけじゃない。ま、慣れてくれ」

2「俺は料理が趣味なんでなぁ。腹が減ったらいつでも言えよ？　材料さえあれば、携帯食料なんかよりはマシなものを食わせてやれるさ」

3「最近気付いたんだが……お前の傍はいつもいい風が吹いてる気がするなぁ。理由は知らんが、悪くない」

4「武器なんざぶっちゃけ何でもいいんだが、どうやらヴァーユの加護が俺にこの旗槍を持たせてくれたようだ、これは流石に有難く使わせてもらってるぜ。ま、テンション上がったらそこらの樹とか引っこ抜いて使っちまうけどよ」|

5「俺の事は頼れる兄貴だと思え。ま、弟でもあるんだが、それはさておきだ。とにかく、力と体を使う仕事なら俺に任せときな。羅刹だって二つ折りにしてやるぜ」|

・マスターとの会話

1「（匂いを嗅ぐ音）おい、外からいい匂いがしてねぇか？ 揚げ物か、焼き物か……なんでもいい。とにかく腹が鳴って仕方がねぇ。行ってみようぜ、マスター！」

2「実は俺たちは一年間、兄弟全員で名前と身分を偽って王宮で働いてた事がある。だから誰かに仕えるのもお手の物よ。ま、そん時はもちろんサーヴァントとしてではなく、ただの料理人としてだったがなぁ」

3「マスター。俺はお前を守り、共に戦う。そして腹が減った時には美味い飯を作ってやる。つまり、俺からしてみれば、昔兄弟たちと放浪していた時と何も変わらん、というわけだ」

・エミヤがカルデアにいる場合

「見りゃあ分かる、奴は相当やるぜ。場合によっちゃあ、この俺でも太刀打ちできんだろう、エミヤか……フッフッフッフ、どんな美味ぇもんを食わせてくれるのか、心の底から楽しみだ！ よし、大盛りを一丁頼むぜぇ！！」

・ラーマがカルデアにいる場合

「噂に聞く英雄ラーマ！ ハヌマーンと共に戦ったんだろう？ あの偉大なるハヌマーンの戦友なら、俺とも戦友みてぇなもんだ。よろしくな！」

・坂田金時がカルデアにいる場合

「金時っているだろ？ なんか似たもん同士な感じがしてよぉ、よく腕相撲とかしてんだが……いやぁ、あいつは強ぇなぁ！ 飯もよく食うし、気が合うぜ！」

・アルジュナがカルデアにいる場合

「アルジュナ！ 我が自慢の弟よ！ 元気か！？ お前の事だ、戦いで活躍できてない筈がないし、能力が評価されてないという事も有り得ないだろうが……優秀すぎて壁を作られている、という事はあるかもしれんなぁ。……よし！ 俺が料理を作ってやるから、食事会を開こう！ 俺がお前の親しみやすいエピソードを仲間に語りまくってやる！ ……なに？ やめてほしい？ なぜだ？」

・カルナがカルデアにいる場合

「カルナ……。かつてはアルジュナの誓いのため、俺はお前を殺せなかった。お前はお前の誓いのため、俺を殺せなかった。お互いに消化不良だったよなぁ。…………分かってる。マスターが同じなら、結局ここでも消化不良だ」

・アルジュナ（オルタ）がカルデアにいる場合

「アルジュナ……お前にはそうなる可能性もあったのか……。どうして……独りでそこまで背負い込んだ……」

・大黒天がカルデアにいる場合

「ん……？ なんとなくシヴァ神の匂いがするネズミだなぁ。まぁ、細けぇ事はいいか。ホカホカのおにぎりが美味ぇのは、完全同意だしな！」

・アシュヴァッターマンがカルデアにいる場合

「アシュヴァッターマン……。いや、今更何も言うまい。その目を見れば分かる。俺たちとお前たちは、ここでも決して相容れる事はないのだろう」

・ガネーシャ神がカルデアにいる場合

「アレがガネーシャ神なのかはともかく……ふむ。飯の食わせ甲斐がありそうな腹をしてやがるぜ。いつ供え物の団子を求められてもいいように、準備しとかねぇとな。一分に百個くれぇ作れたら間に合うか……いや、もっとか……？」

・ネモ（サンタ）がカルデアにいる場合

「なに……？ ベーカリーが俺のナンを恨めしそうに食っていた……だと？ ……多分それはナンじゃなくてチャパティなんだが……そういう問題じゃねえか。つうか、アレは俺のカレーに一番合うように作ってるんだから、止まらねえのは当然だろう。それ以外のパン焼きは、まだまだあっちの方に分があると思うぜ？ 俺も負けねえようにまだまだ腕を磨きてえもんだ」

・イベント開催中

「今は祭りの時期なんだろう？ で、祭りにゃ特別な食いモンが付き物だ。コイツは食いまくって勉強するしかねぇよなぁ……。行くぞマスター！ 心配するな、全部俺の奢りだ！」

・マスターの誕生日

今日この日しか作れねぇ特別な料理がある。そのチャンスを、俺が逃すわけねぇだろう？ オラ、誕生日ケーキだ！ 蝋燭だって立ててるぜ！ ──おめでとさん、マスター」